

第15回鎌倉歌壇さきがけ源頼朝公顕彰歌会

昨年12月に開催予定だった恒例のさきがけ歌会は、新型コロナの感染拡大により誌上歌会となりました。

例年通り投稿歌を募集、全国から164首の応募がありました。4名の選者と、富岡幸一郎同人会理事長に選をお願いし、以下のように各賞が決定しました。全投稿歌を掲載する歌集も例年通り作成、投稿者だけでなく今年は同人会会員全員に郵送しました。

【大下一真選者賞】

「ゴキブリの運動会だ、放っておけ」独りの部屋に呟いてゐる 飯田 穰壺 鎌倉市
和巳からドラッカーに入れ替えてウェブ会議に本棚映す 深串 方彦 東京都

【香山静子選者賞】

ひとつ長く蝸鳴きて沁み透る薄暮の街に風吹きぬけて 小南 紀子 横浜市
晩夏光あびつつ歩く坂道に芒もつ草は天にそよげり 冢田キヌエ 横浜市

【木村雅子選者賞】

われとほぼ同じ重さの母を抱く車椅子へとベッドへと抱く 阿部 容子 藤沢市
秋の手はきつと長かろ紅葉する山も里をも抱きしめるため 森 ひなこ 広島県

【津金規雄選者賞】

朝の陽を背中に受けて深^{ふか}谿^{たに}の雲海に浮くわが姿を見つ 鈴木 昭紀 静岡県
緑道へ葉陰を伸べてくれし桐 いまは根株におじぎして過ぐ 井鍋 幸子 相模原市

【鎌倉同人会賞】

風のむき時にかへつつ室戸岬いま吹く風は鯨^{いさな}のむれぞ 高木 瑛子 東京都
今しがた落ちしばかりの蟬を手に重みに気づく少年の夏 藤原こずえ 千葉県